

海がある、わたしのまち



本市の南に広がる三河湾は、知多半島と渥美半島に囲まれた、波の穏やかな内湾です。この恵まれた海的环境を活かし、地域の文化や産業が育まれてきました。このまちには日常のすぐそばに海があります。今号では、そんな海と人との関わりを取り上げます。

シティセールス推進室 ☎ 66-1225

あやつき丸で漁業を営む浦田さん。西尾市出身で、漁師を始めて今年で10年目を迎えます。元々釣りが大好きで、以前は釣具店に勤めていたそうです。「自分で事業をやりたいと思っていた時に市の新規漁業就業者支援事業を知って、これだ!と。」

そこから3年間の修業を経て独立し、現在は1人で操業しています。

浦田さんの漁法は「まんが漁」と呼ばれる伝統的な底引き網漁。潮の流れや海底の地形を読みながら、狙った魚を逃さずとらえるには、経験と勘が欠かせません。よく獲れるのは、ワタリガニやシャコ、エビ、貝など。「とれたてを刺身や塩ゆでで食べるのが1番おいしいですよ」と教えてくれました。

一方で、漁師の高齢化といった課題も感じており、「この10年で独立したのは、自分を含めてたった3人。3K(きつい・汚い・危険)って言われる仕事だから、好きじゃないと続けられない」と言います。



漁師 浦田圭太

今後は親子連れに人気の漁業体験にも力を入れ、海に触れる楽しさをもっと多くの人に伝えていきたいそうです。

「自然相手なので一筋縄ではいかない。でもそこがおもしろいところなんです。毎日のように海に出ているけど飽きることはないですね」と笑い、今日もまた舵を握り、朝焼けの海へと出ていきます。